

お待たせしました。
教頭先生の本屋さん

新ちゃん書房

いよいよ**開店!**

昨年度の「校長先生の本屋さん 川原書店」に続いて、今回は「**新藤隆夫教頭先生（数学）**」です。先生の持ち込み企画により、先生の年代別にテーマを設定し、それぞれの年代での読書傾向を本棚3段に展開するというもの。さながら「人生図書館」です。

どんな本を読んできたかは、どんな人生を歩んできたかに通じるところがあるのではないのでしょうか。教頭先生ってどんな人なのか、ぜひ本を通して想像してみてください。では簡単に紹介します。

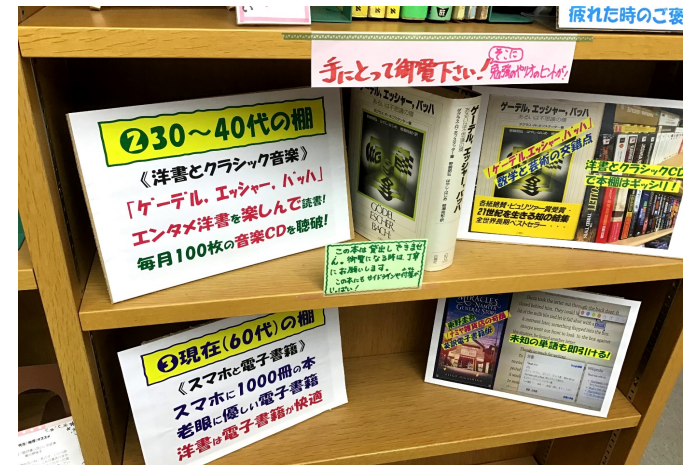
①受験生時代の棚

ここには教頭先生が受験生の頃実際に使った参考書や教科書が並んでいます。手にとって中をご覧ください。どのページにも色を変えてのアンダーラインと書き込み。勉強の仕方など参考になることが多いと思います。なんとと言っても心に響いてくるのは教材に対する精神です。教材への愛情と敬意。本を大切に使うとはこういうことなのかという生きた見本がここにあります。



②30~40代の棚

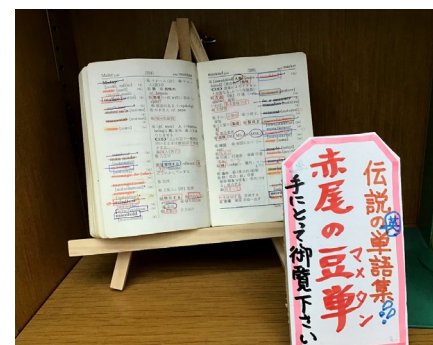
洋書とクラシック CD。この頃の教頭先生はエンタメ洋書を楽しみつつ毎月100枚の音楽CDを聴きまくり、数学と芸術との交差点を模索。ご紹介頂いた1冊『ゲーデル、エッシャー、バッハあるいは不思議の環』（ダグラス・R・ホフスタッター著 白揚社）は700ページを超える大冊ですが、ここでもページのいたるところに付箋とライン。受験生時代の本に対するスタイルは健在です。



③現在（60代）の本棚

スマホに1000冊の本を入れて、時に拡大しながらの読書。電子書籍は老眼に優しいそうです。電子書籍の良さは洋書でも遺憾なく発揮されています。未知の単語に出会ったらすぐに辞書機能を活用する。教頭先生の学びのスタイルは常に進化し続けています。

さあ皆さん! 新ちゃん書房開店で~す。教頭先生の心の中を覗きたい。自分の勉強法を見直したい。40年前の受験参考書ってどんなの? などなど興味のある方は是非お立ち寄り下さい。お待ちしてま~す。



教頭先生ご自身による紹介動画も校内のサイネージで配信中!!

